

## 市街地を見わたす丘の上に

水戸南高等学校 第25代校長  
川内 孝雄



創立 50 周年を迎えるにあたり、僭越ながら一言添えさせていただきます。

この半世紀に渡り、本校舎、下妻一高、細谷高等専修学校をはじめとする学び舎で高校時代を送られた同窓生の皆様、そのご家族として見守られてきた方々、生徒の成長に深く関わってこられた先生方、現役生徒の皆さんに、心より創立 50 周年のお祝いを申し上げます。本来であれば、令和 2 年度に実施するものであった記念式典等は、新型コロナウイルス感染症の事情により今年度に延期され、この記念誌も 1 年お待たせすることになりました。

昭和 46 年度に開校となった水戸南高は、定時制普通科 320 名、同商業科 480 名、通信制普通科 1,200 名の生徒定員でスタートしました。定時制は 17 時 25 分からの給食、17 時 45 分からの授業を日課とする夜間の学校でした。また、昭和 46 年度の水戸南通信には、本校、土浦協力校、下妻協力校、双葉学院における通信制スクーリングについて書かれています。

節目の出来事としては、昭和 47 年に通信制被服科が設置され、同年、細谷高等技芸女学校が技能教育施設として指定されたこと、平成 3 年度に定時制が単位制となり、商業科が停止され、普通科の昼間制・夜間制となったこと、平成 16 年度に通信制が単位制となったこと、平成 22 年度に通信制被服科がライフデザイン科となったこと、などがあります。そして、元号が令和となり 50 周年を迎えました。昭和の 10 代だった私にとって水戸南高のテニスコートは、市内を自転車で走っていてふと出会う景色でした。その学校の 50 年目に、25 代目として立ち会うことは大変不思議な気持ちです。

初代校長の田所恒喜先生は、校是を生み出し、開校年度の秋に校歌の作詞作曲もなされた多才な方であったことを知ることができます。創立 30 周年記念誌に残る「市の中心が駅南に移ったとき、この市街地を見わたす丘の上に 4 階建の立派な校舎ができる」という第 1 回入学式の式辞は、駅南大通りができ笠原町に県庁がある現在を、まるで予見されていたかのようです。教室棟・管理棟は、開校から約 2 年後に完成しました。校歌の歌い出しの「緑なす水戸の南にそそりたつわれらが母校」、今はまさにそのとおりの姿をしていますが、実際には、まだ見ぬ光景を思い描いて書かれた詩です。未来を想像し、創造しようとするのが、いかに大切であるかを教えていただく思いです。

校是冒頭の「風雪」、その意味するものは変わってきています。かつては、疲れて休みたい日も勉強すること、自分の生活を支える責任の重さなどを表すものでしたが、今は世の中の人間関係の難しさや内面的な葛藤も「風雪」にあたります。水戸南高校生には、人それぞれの困難を「耐え」るだけでなく、「静かに乗り越える」姿があります。そして、確かな自分のポリシーを身に付けていくのだと思います。

皆様、これからも 60 周年、100 周年と時を刻んでいく本校とそこに通う本校生を見守っていて下さい。